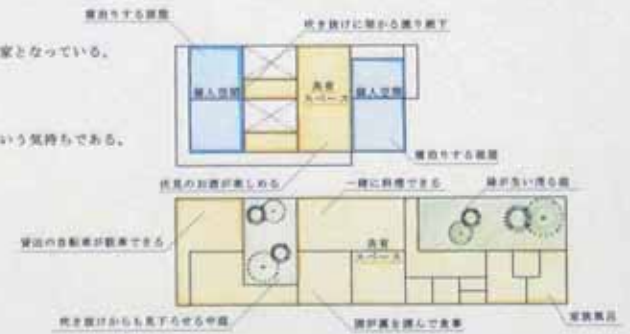


きょうを楽しむ

—空き家を活かす—

私たちがリノベーションの対象とした建物は昔、船宿として多くの人に利用されていた。しかし時代の流れから船での仕事もなくなり宿に泊まる人が減り船宿が必要なくなり、今は空き家となっている。この建物がある場所は京都の伏見区の中書島区域にあり、観光地であるためその立地に注目して、そこを宿泊施設にしようと考えた。近年、京都は世界有数の観光地となっていて、宿泊施設も多数存在しているそんな中で、選んでもらえる宿泊施設にするにはどのような工夫が必要かを考えた。図面を見ればわかるように、複数組が泊まれることはなく、多くて二組限定の宿泊施設にした。その理由は空間を広くとり、ゆったりと過ごしてもらい、旅の疲れを癒してほしいという気持ちである。また、少人数制にすることで船のお客との接触も減り、本来の町屋に、住んでいる雰囲気を感じてもらいたいと考えた。中庭を設け吹き抜けにしたのは、空間を広くすることで専ら静けさをもたらすためと、風の通り道にし、京町家本来の機能を十分に活かすためである。近くに川が流れているということもあり、涼しげな風が吹き抜けるため夏には涼しく過ごすことができると考えた。



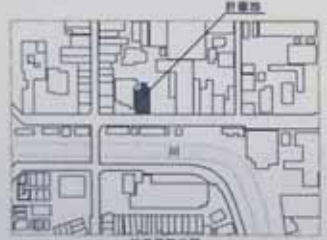
既存の建物



1階 平面図 1/100



2階 平面図 1/100



天窓から入る光が中庭を照らす。吹き抜ける風も気持ちいい。



断面図 1/200



東立面図 1/200

窓から差し込む朝日が懐かしい朝を演出し、一日のいいスタートを運ばせてくれる。

京都の伏見区の中書島区域にあり、この土地には、多くの町屋が残っている。計画地の前の川では観光客を乗せた船が運航している。